

第 1 2 0 回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和 7 年 1 1 月 2 7 日（木）

午後 7 時～午後 9 時 1 5 分

会 場：城山総合事務所本館 2 階 B 会議室

出席者：1 8 名（欠席 5 名）

傍聴者：2 名

1 開 会 内山所長

2 代表あいさつ 林代表

3 行政等からの連絡事項

（１）城山地区小・中学校の学習環境のあり方について

学務課の職員より資料 1 に基づき説明がされた。

＜ 主な質問等 ＞ ○委員からの質問等 ●学務課からの回答

○令和 8 年度に新 1 年生として湘南小学校に入学する 4 名については、1 年だけ湘南小学校に通って、令和 9 年度からは広田小学校に通うことになるので、保護者の方が不安を感じている。ぜひ意見を聞いてあげてほしい。

●承知した。

（２）城山中央公園の都市計画変更について

公園課の職員より資料 2 に基づき説明がされた。

＜ 主な質問等 ＞ ○委員からの質問等 ●公園課からの回答

○公園には新しい名称の看板を取り付けるのか。

●来年度、看板を何か所か設置する予定である。

○資料の中で、トレイル沿いにおけるベンチの設置、現行トレイルを活かした散策路、と書かれているが、具体的にいくつ設置、どのような散策路にするのか、具体的な考えがあれば教えてほしい。

●ベンチは 3 基を予定している。散策路については、トレイルというのは一般的には「踏み跡」と訳されるものであり、風致公園として整備される予定なので、散策路として綺麗に整備するようなものではない。

○既存樹林の継続拡大とはどういう意味か。

●今ある樹林を活かし、維持管理を適切にしていくという意味である。エリアを拡大していくという意味ではない。

○風致公園なので、あまり手をつけないで維持していくということになるのかと思うが、公園として整備するわけだから、公園に魅力を感じて訪れてみたいと思わせるようなものにしてほしい。

●承知した。

○駐車場もトイレもない公園になるとのことだが、それでは近辺に住んでいる人しか利用できない。どのくらいの人数が来園する想定か。

●都市公園は5年置きに利用実態調査を行っている。来客数の推定値は平日50人、休日70人であり、トイレの設置については設置基準を満たしていないのが現状である。公園の供用後の利用実態を見ながら、検討していきたい。また駐車場についても、調査から計算値で必要台数0.73台ということになっており、1台に満たないので、駐車場は設置しない方針である。

○季節ごとに木などを植えていただけると、利用したい公園になる。また、草刈り、ベンチの清掃等の公園の維持管理を適切にやっていただきたい。

○風致公園なので、自然のまま、自然を見するという感覚でいいのではないかと思う。草刈り、倒木処理等の対応はお願いしたいが、道やトイレを作るということは必要ないと思う。

○自然を活かした魅力ある公園にするという話であったはずだが、当初の話よりトーンダウンしている印象である。公園の青写真が見えない。魅力ある公園にすれば市外からも人が来るので、来園数は増えるはずである。

○予算的にはどれくらいの金額で整備を考えているのか。

●今予算要求をしている状況で、お話できる段階ではない。

○風致公園としての自然の保全を、どの程度の位置づけで考えているのか。

●風致公園は自然の趣き、味わいを楽しむ場所なので、具体的な数値等の目標を設定するのは難しい。倒木の危険、民家への危険を与えないような適切な維持管理をしていきたい。

○「(仮称) 城山春林公園」の読み方について、昔あったお寺の住職の名前が「しゅんりん」だったという話を聞いたことがある。

○昔の相模丘中の広報誌、校歌には「はるばやし」となっている。

○昔に「しゅんりんおおけつぼぐん」があり、川尻の墓が並んでいた。

○昔の人は「しゅんりん」、最近の人は「はるばやし」と呼んでいる。歴史的には「しゅんりん」だが、相模丘中の影響もあり「はるばやし」と読む人も増えてきている。

○市内に風致公園は2つあると思うが、どこか。

●「道保川公園」と「相模川自然の村公園」である。

○旧市内の「こもればの森」と似たような公園になるのか。

●「こもればの森」は公園ではなく緑地であるため、別のものである。

(3) 地域活性化事業交付金見直しについて

事務局より資料3に基づき説明がされた。

＜ 主な質問等 ＞ ○委員からの質問等 ●事務局からの回答

○交付金の交付回数が延長されるとのことで、活用しやすくなることは良いと思うが、その分、市の予算は増えるということか。

●市の予算は従前と変わらない。

○交付回数を延長するのに予算を増やさないということだと、1団体あたりの交付金額が減ってしまうのではないか。

●市全体としては交付率が低い現状があるので、各地区で定められている上限の額を超える申請があったとしても、必ずしも交付できないということではない。余っている地区があればその予算を流用するという運用も可能である。

○他の地区で余ることを前提に考えるようでは駄目だと思う。これから各区で交付基準を定めると思うので、予算増額すべきという意見を出してほしい。

4 議 題

(1) 令和7年度城山地区まちづくりを考える懇談会の振り返りについて

令和7年度城山地区まちづくりを考える懇談会について、事務局から資料4に基づき結果報告がされ、懇談会のテーマになっていた「地域の居場所づくり」について、まちづくり会議委員のそれぞれの所属団体等で既に実施している、地域の居場所になっている事業について情報共有をした。

＜ 主な意見 ＞ (●…委員、○…代表)

●城山地区社会福祉協議会が関わっているものとしては、子育てサロン、障がい者サロン、高齢者等サロン、誰でも参加可の住民交流の場、認知症カフェなど、様々な居場所事業を実施している。また、ボランティアで様々な目的の居場所事業が実施されている。

●城山地区シニアクラブ連合会では、ゲートボール、グラウンドゴルフ、麻雀、社交ダンス、ウォーキングなど、高齢者の居場所になっている催しを行っている。

●懇談会で話題に上がった住民交流の場「和い輪い田名」について、元々そば屋だった場所を借りて運営しており、毎週月・火・木・土に営業している。高齢者の方だけではなく、小学生、中学生、高校生を巻き込んで活動しており、幅広い年齢層が関わる居場所となっている。ボランティアポイント制を導入しており、和い輪い田名での活動だけではなく、地域のイベ

ント等にボランティアとして参加した場合もポイントを貰うことができ、ポイントが溜まれば社協でプレゼントと交換できる。

○市から補助金を貰って運営しており、様々な年代の居場所になっている良いモデルだと思うので、一度視察に行ってみたい。

●久保沢自治会で高齢者対象のスマホ教室を開催している。久保沢自治会だけではなく、全地区でやれば良いと思っている。

●城山地域包括支援センターでは、いきいき百歳体操を城山地区内 9 か所で実施中である。それぞれの地域で自主的に地域に合ったかたちで行われている。

○若葉台自治会では、今年の春から自発的に毎日朝 6 時 30 分にラジオ体操をする活動が始まっており、最初は数人で始めたものが今では 15 人程度で行っており、体操するだけではなく、体操後にはベンチで話をするなど、地域交流の場になっている。

●城山公民館では、いわゆる縦割りの居場所、目的を特定した居場所事業が大半を占めている。一部、対象を特定しない事業があるが、地域の居場所となるような継続的なものではない。本日、他の団体の活動を情報共有できたので、他の団体と一緒に事業を計画して、横断的な居場所づくりに繋がるものができたらいいなと考えている。

●法政大学ソーシャル・イノベーション・センターしろやまふれんずと城山公民館の共催事業として、「はじまり食堂」というものを始める。きっかけは、1 人の大学生が、自分が子どもの頃に、大人たちが読んでくれた絵本に出てきた料理を、一緒に作ってくれたことがすごい嬉しくて思い出に残っているということで、その思いを子どもたちにも味わってほしいという純粋な気持ちから、チーム化して事業を計画した。子どもたちと仲良くなって、子どもたちのやりたいことを実現していきたいと思っているので、今後かたちを変えながらゆるやかに活動を継続していく予定である。

●いろんな団体が実施している事業を知ることができた。それぞれの活動をうまく繋げていけば、新たな箱ものを作らなくても地域の居場所を作ることができるのではないかと感じた。どうやって周知をしてどうやって人に来てもらうか、というところを皆さんで知恵を出し合うといいと思う。

●川尻小学校は総合学習の一環として、6 年生が「無限プロジェクト」というものを行っており、地域のお店と協力して商品開発・販売をし、地域活性化を目指した取組みである。保護者の方にはアピールしやすいが、地域の方にこの取組みを知っていただくのが難しいと感じている。川尻小の子どもたちが企画した商品を目にした地元の方は、購入してくれることも多いので、川尻地区っていい場所だなと感じていただき、コミュニティが広がっていいなと思っている。子どもたちが自分の地域を愛して、大

事にしていって、地域を自分たちで盛り上げていけるような取組みを続けていきたい。

○地域と繋がるということは、地域の居場所づくりの目標であるため、支え合い、助け合いをすることで地域のコミュニケーションが増えることはとても良いことである。

●城山体育振興協議会では、グラウンドゴルフやファミリーバドミントン、卓球などを事業として実施している。地域のコミュニケーションの場になっており、今後も継続してやっていきたいと思っている。

●城山観光協会では、城山自然の家を土日に開けて地場野菜の販売等をしているが、人が集まり地域の居場所にもなっており、情報交換などを行っている。

●城山商工会は、災害に強い商工会を目指しており、災害に対する意識を協力して高めていくことで、地域との繋がりを作り、地域の居場所に発展していくと考えている。

○災害に強いということは、物理的な強さもあるが、人間力、人と人のコミュニケーションができていく地域ほど、強いと思う。居場所というのは人間が生きていく上で必要なものであるので、今後検討を重ねていきたいと考えている。

（２）城山地区で具現化していく取組について

全体会終了後に各部会に分かれ検討を行い、各部会検討終了後にそれぞれ解散となる旨説明があった。高齢者とともに築き支える地域づくり部会については本日は検討を行わず、子どもたちの主体性を育む地域づくり部会は検討を行うこととなった。

（３）その他

事務局から、児童クラブ、こどもセンター、児童館の職員募集に関するチラシの内容説明があった。小学校４年生以上の子どもを児童クラブで受け入れる方針を市が決め、その実現にあたって職員が不足しているため、募集をしているとの内容であった。また、緑区長との懇談会を今年度中に実施するという話で、調整をした結果１月１６日（金）に実施する方向で話を進めているので、出欠の確認通知が届いたら回答していただくよう説明があった。

平栗委員から、相模湖のバレエの件で、１０月１８日（土）、１９日（日）に「さがみ湖野外バレエフェスティバル」が開催されたが、神奈川県、相模湖地区としてもバレエによる地域活性化を目指しており、２日間トータルで約８，０００人の来場者があり大盛況であった旨の話があった。また、津久井商工会がリニア中央新幹線についての要望を出しており、橋本駅から車庫になる鳥屋

までの区間を路線として整備してもらえないかという声を上げている。経済効果がある話なので、城山・相模湖・藤野地区の商工会においても協力していきたいと考えているとの話があった。

5 閉 会 高野副代表

以 上

【全体会終了後の各部会での検討内容】

●子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

「あつまれ～ しろやまっこ！モルック大会」を川尻小で実施したが、その振り返りを行った。また、来年度の事業実施に向けた内容の検討を行い、来年度はモルックにこだわらず、理念を継承して事業を継続できる団体と一緒に活動をする方向で話を進めることとなった。

《 主な意見 》

- ・今まで部会で実施してきたモルックを活用した事業で、小学校高学年の参加はほとんど見られなかったが、今回初めて6年生の参加があり、7名も来てくれたのはとても良かった。また、30代から80代まで幅広い世代の方に参加していただき、80代の方は孫も含めて3世代で楽しくモルックをやっていたのが印象的であった。
- ・城山高校、法政大学の学生さんにもご協力いただき、地域の様々な年代や立場の人が繋がりを持つきっかけになったと思う。
- ・参加してくれた子どもたちからは様々な意見が出て、普段あまり接点がない高校生や大学生、地域のご高齢の方などとコミュニケーションが取れて仲良くなれたことを喜んでいる声もあった。
- ・協力してくれた高校生が楽しそうに生き生きと事業に参加してくれて、とても良かった。
- ・準備やゲームの最中に、大人が手を差し伸べずに見守ることで、子どもたちに自主的にやらせる空気感が全体的にあり、良かった。
- ・あの日、初めて会った人たちにも関わらず、チーム内でうまくコミュニケーションを取って自主的にゲームを進めたり協力して行動していた。
- ・来年度、理想としては他の団体にこの事業を継承し、まちづくり会議はバックアップする立場になればいいと思う。まちづくり会議で事業を継続的に実施していくのは難しいし、本来はそういった位置付けの会議でもないと思う。

- ・モルックにこだわらず、人が集まる事業を実施していけばいいと思う。事務局のある団体、機関にお願いして事業継続をしてほしいと思う。
- ・来年度の事業実施に向け、地域活性化事業交付金の申請内容を具体的にしていくな必要があるので、次回のまちづくり会議までにそれぞれ考えてきてほしい。
- ・子どもたちの主体性を育むという目標はかなりハードルが高く、難しい内容である。モルック事業を継承することはできるかもしれないが、この理念も引き継ぐとなると受入れてくれる団体はなかなか無いと思う。

以 上

第120回城山地区まちづくり会議出欠席者名簿

任期：令和6年4月27日～令和8年4月26日

番号	分野	団体名	役職等	委員氏名	出欠
1	地域関係	城山地区自治会連合会（会長）	代表	ハヤシ カズヒロ 林 和博	出席
2		城山地区自治会連合会（副会長）		ナカノ ヒロト 中野 秀人	出席
3		城山地区自治会連合会（副会長）		アンザイ カツマサ 安西 勝正	欠席
4		城山地区自治会連合会（川尻小学校区）		カンドウ ハジメ 神藤 元	出席
5		城山地区自治会連合会（湘南小学校区）		タカハシ アキラ 高橋 章	出席
6		城山地区自治会連合会（広陵小学校区）		ワタナベ マサシゲ 渡辺 政茂	欠席
7		城山地区自治会連合会（広田小学校区）		シバヤ タカシ 渋谷 隆	欠席
8	保健・福祉関係	城山地区社会福祉協議会	副部長	コジマ テリオ 小島 盛生	出席
9		城山地区民生委員児童委員協議会	副代表	スガノ ケイコ 菅野 敬子	出席
10		城山地区シニアクラブ連合会		アベ ユウゾウ 阿部 晃三	出席
11		相模原市赤十字奉仕団城山分団	部会長	ソウダ マリコ 宗田 真理子	出席
12		城山地域包括支援センター		ハヤシタ カシ 林 多加史	欠席
13	産業・経済関係	城山商工会		ヒラグリ フミオ 平栗 文夫	出席
14		城山観光協会		サクライ カオル 櫻井 かおる	出席
15	防犯・防災関係	安全・安心まちづくり推進協議会城山支部		スギモト ナオヒロ 杉本 直宏	出席
16		相模原市消防団北方面隊		タノクラ タカヒコ 田野倉 隆彦	欠席
17	教育関係	城山公民館運営協議会	副代表	タカノ アサエ 高野 朝枝	出席
18		城山体育振興協議会		ヒグチ タモツ 樋口 保	出席
19		城山地区小中学校長情報連絡会		サキヤマ ヒロト 嵯山 浩人	出席
20		特定非営利法人城山スポーツ&カルチャークラブめいぷる		カタクラ リエ 片倉 理恵	出席
21		神奈川県立相模原城山高等学校		ヒグチ カズカ 樋口 一孝	出席
22	有識者		部会長	カネコ ナオミ 金子 直美	出席
23				モトノ ナオコ 本野 直子	出席

①は高齢者とともに築き支える地域づくり部会

出席者数 18人

②は子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

欠席者数 5人

第120回城山地区まちづくり会議 全体会次第

日 時 令和7年11月27日（木）
午後7時
会 場 城山総合事務所本館
2階B会議室

1 開 会

2 代表あいさつ

3 行政等からの連絡事項

（1）城山地区小・中学校の学習環境のあり方について ……資料1

（2）城山中央公園の都市計画変更について ……資料2

（3）地域活性化事業交付金見直しについて ……資料3

4 議 題

（1）令和7年度城山地区まちづくりを考える懇談会の振り返りについて ……資料4

（2）城山地区で具現化していく取組について（部会検討）

5 閉 会

<次回の予定>

第121回全体会

1月29日（木）午後7時

城山総合事務所
本館2階B会議室

城山地区小・中学校の学習環境のあり方について

相模原市教育委員会 教育局 教育環境部 学務課

1 検討の背景・経過

(1) 検討の背景

近年の少子化の進行により、城山地区の小・中学校の取り巻く環境は大きく変化し、特に小学校の児童数は、昭和59年をピークに減少し、湘南小学校、広陵小学校でクラス替えができない1学年1学級の学年が発生しており、過小規模校（※）になっている。

こうした状況の中で、過小規模校で学ぶ子どもたちのために、多様な考え方に触れることができる学習環境を整備するため、次のとおり「城山地区小・中学校の学習環境のあり方検討協議会」を設置して検討してきた。

（※ 過小規模校とは、11学級以下の小学校、5学級以下の中学校）

【検討協議会】

- ・ 設置年月 令和5年5月
- ・ 構 成 員 P T A選出委員12名（川尻小、湘南小、広陵小、広田小、相模丘中、中沢中）
まちづくり会議選出委員8名（令和7年11月現在、会長が必要であると認める者として自治会長他3名が構成員として参加）

(2) 検討の状況

▶ 湘南小学校の学校再編の検討経過

- ・ 検討協議会では、第2回で特に児童数が少ない湘南小学校を中心に検討を進めることを決定し、令和7年10月までに15回開催して検討を行った。
- ・ 検討期間内では、保護者アンケートや説明会を実施し、保護者への意見を聴取した他、湘南小学校の通学区域にお住まいの地域の方や、未就学児の保護者へもアンケートを実施した。
- ・ 再編先として、川尻小学校と広田小学校を検討し、湘南小学校の全校児童の人数と比べても広田小学校の児童数は馴染みやすい人数と考えられ、且つ保護者が広田小学校への学校再編を希望したため、検討協議会としては保護者の意見を尊重する意見がまとめられた。

※広陵小学校は湘南小学校とは中学校の指定校が異なるため、再編先としては難しいとの意見になった。

- ・ 令和7年10月8日に、検討協議会から教育委員会へ検討結果報告書が提出された。

【令和7年度 湘南小学校学年別児童数】

1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
1人	4人	3人	1人	3人	3人	15人

2 検討結果報告書における再編の方向性

- ・過小規模校である湘南小学校を閉校し、広田小学校に再編する
- ・広田小学校への登下校はスクールバスを運行する
- ・再編の時期は令和9年4月実施予定

3 市の対応方針

▶ 湘南小学校の学校再編に係る市の対応方針（令和7年11月教育委員会定例会で決定）

・湘南小学校を閉校し、広田小学校に再編する

→過小規模校を解消し、クラス替えができる学校規模になり、多様な考え方に触れることができる望ましい学習環境を実現できる。

→特に児童数の少ない湘南小学校の児童が馴染みやすい人数である。

→課題解決のためPTA、地域の方々に意見を伺い、また、検討協議会では保護者の意見を最大限に尊重するという考えがまとめられ、保護者が希望する広田小学校への再編が最善である。

・広田小学校への登下校はスクールバスを運行する

→通学距離が長くなるため、スクールバスの運行は必須である。

・再編時期は令和9年4月を予定

→1学年1人の学年が存在し、児童数減少の問題は先送りできるものではないため、再編時期は早い方がよい。

4 事業スケジュール

年度	令和7年度					令和8年度			令和9年度		
月	11	12	1	2	3	4		3	4		
学校再編	市の対応方針決定 （教育委員会定例会）	検討協議会報告						湘南小学校閉校	広田小学校に再編		
			再編へ向けた準備・事務手続き等								
			閉校記念式典準備								

【再編後の広田小学校の児童推計】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
R 9	36 2	37 2	46 2	43 2	50 2	42 2	254 12

※特別支援学級を含まない通常の学級のみ児童数と学級数

※児童数は令和7年5月1日現在の数字と、令和9年推計値を元に試算したもの

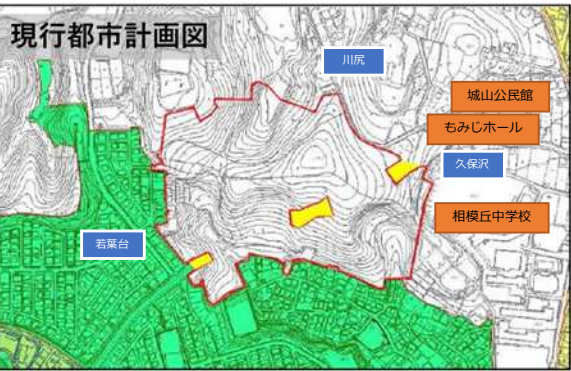
【再編後の通学区域図】



①城山中央公園とは

概 要

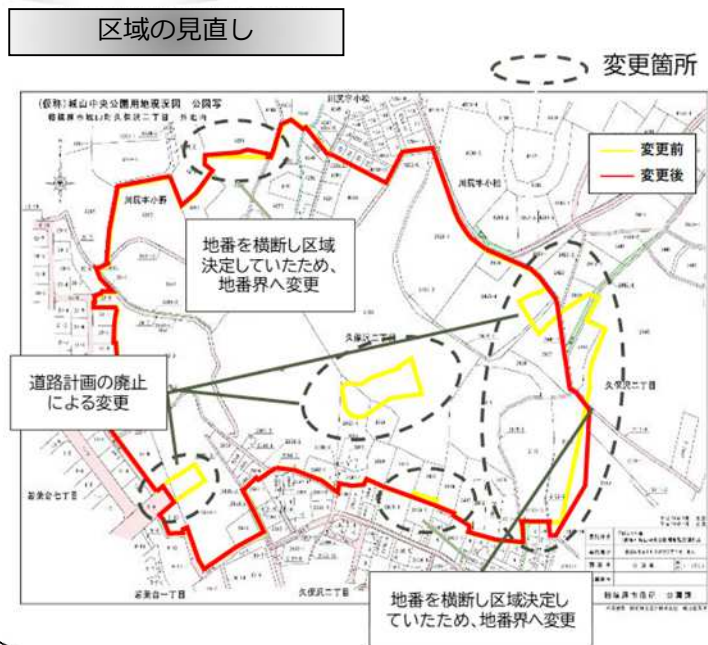
- 所在地：緑区久保沢 2 丁目
- 都市計画決定：平成 6 年 1 月（城山町）
- 都市公園告示：未告示
- 公園種別：総合公園
- 公園面積：約 1 0.1 ha
（うち未取得 約 1.1ha）



経 過

年度	項目
H元	城山町中央公園基本計画策定 (15.6ha→文化ホールや保健福祉センターの建つ区域まで含めた計画)
H5	城山中央公園都市計画決定 (10.1ha→左図の赤枠部分)
H18	相模原市と城山町が合併 (未告示の総合公園として継承)
H30	都市計画公園・緑地見直し 社会情勢の変化に対応した公園に求められる機能の変化、長期未着手となっている公園の必要性を検証 ⇒ ・「廃止」か「存続」か検証の結果、「存続」となる ・ <u>存続の条件として、公園種別や区域を変更すること、具体的な検討を行うこととなる</u> ・公園計画について見直しを行い、樹林地保存活用方針をまとめる
R 3	公社による先行取得地の買戻が完了し、公園用地となる

③変更区域図

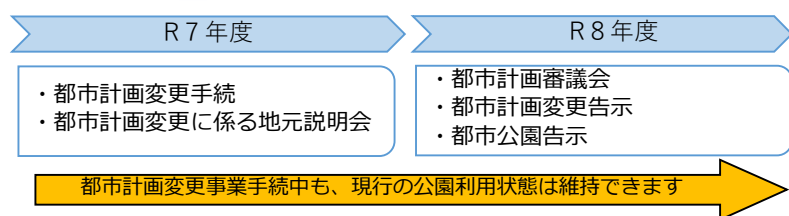


②都市計画の変更内容

貴重な自然の存続及び市民への享受など現状を維持していくための方策として、都市計画を変更して風致公園とするもの

都市計画に定める事項	変更前	変更後	変更理由
公園種別	総合公園	特殊公園 (風致公園)	自然環境の保全、享受を主たる機能と捉えた公園種別へ変更するもの
名 称	城山中央公園	(仮称) 城山春林公園	公園種別変更に合わせ、地域性(旧字名)をイメージできる名称へ変更するもの
位 置	久保沢 2 丁目 ほか	変更なし	
区 域		変更 7 箇所	公園内道路構想の廃止及び用地取得に係る境界確定に伴う区域界の変更
面 積	1 0.1 ha	1 0.3 ha	区域界変更に伴う面積の増加
備 考 (主要施設)	芝生広場、散策路、駐車場、樹林地、池等	樹林地、散策路、ベンチ等 休憩施設 等	総合公園の持つ公園機能に合わせた施設から現行区域の既存樹林地の保全や活用に沿った施設に変更するもの

④現時点でのスケジュール



◆地元の皆様へお願いしたいこと◆

- ①公園名称について現時点では「(仮称) 城山春林公園」としておりますが、読み方について地元の皆様で決定をお願いいたします。
(A案: しゅんりん or B案: はるばやし)
- ②都市計画変更に係る地元説明会を以下のとおり実施します。
日時: 令和 8 年 1 月 1 5 日 (木) 午後 7 時 ~ 8 時
場所: 城山総合事務所 本館 2 階 B会議室
※地域情報紙 (12/1号) にて周知します。
※説明内容はあくまでも都市計画変更についてであり、今回と同じ内容になります。

7市協課第1966号
令和7年9月30日

まちづくり会議代表(会長) 殿

市民協働推進課長

相模原市地域活性化事業交付金見直しについて(通知)

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃から市政につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、お礼申し上げます。

さて、相模原市地域活性化事業交付金について、令和6年度に本交付金について活動団体へのヒアリングを実施したところ、交付期間の見直し等を求める声があったことから、別紙「地域活性化事業交付金見直しについて」のとおり、令和8年度に向けて制度の内容を見直すこととなりましたのでお知らせいたします。

今後ともご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

以 上

市民・地域活動支援班
042-769-8226(直通)

令和8年度からの 地域活性化事業交付金見直しについて(概要)

市民局 市民協働推進課

※令和7年度にモデル事業を実施し、令和8年度に要綱改正を行い本格的な運用を予定

◎見直しのポイント

- ✓ 交付回数を3年（3回） → 最大5年（5回）までに延長できる。
- ✓ 交付金の補助率は、3回目までは10/10以内、4回目は3/4以内、5回目は1/2以内とする。
- ✓ マップ作成系事業は、情報更新の必要性から交付回数の制限はなし。
(ただし、継続して交付申請をする場合は、直近で交付金交付を受けた年度の翌年度から起算して原則3年を経過している必要がある。)

	対 象	交 付 期 間	補 助 率
従来	要綱第2条別表第1に掲げる事業	3年間又は3回	3年（3回）目まで 10/10以内
拡充 部分	要綱第2条別表第1に掲げる事業のうち、 区で強化したいことや事業の発展性等を鑑 みて、各区で対象を決定する。	最大 5 年間 又は5回	<u>○ 4 年（4回）目は3/4以内</u> <u>○ 5 年（5回）目は1/2以内</u>

令和7年度城山地区まちづくりを考える懇談会

「地域の未来を語ろう with 市長」結果報告

テーマ

■地区のまちづくりに関して、地区でテーマを設定する（二つ以内）。

- ☐① 現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。
- ☒② 今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

■テーマの概要・内容

概 要	「地域の居場所づくり」について
内 容	<p>地域の居場所として、高齢者を対象とした「ふれあい・いきいきサロン」、「高齢者学級」、子育て中の方を対象とした「ふれあい・子育てサロン」、「子育て支援事業」、子どもを対象とした「子ども食堂」、「無料学習支援・夏休みの学習ルーム設置」、「子ども祭り」などの各種目的や対象者を特定した事業が公民館などで行われている。</p> <p>また、公民館や各自治会(単位自治会)においても、趣味や仲間づくりなど同じ目的を持った人たちによるサークル活動や集いなど、地域活動が行われている。</p> <p>確かにこのような居場所について地域には必要であると考えているが、目的や対象者を特定するなど「縦割りの居場所」となっていると感じている。</p> <p>このような中、城山地区まちづくり会議では目的や対象者を特定しない「横断的な居場所」の必要性を感じており、特に「<u>学童保育対象外の子どもが安全で安心して過ごせる場所</u>」や「<u>子育て世代と地域がつながる場所</u>」の居場所づくりが重要であると考え取り組みをはじめている。</p> <p>例えば、「子どもを連れてふらっと遊びに来て、高齢者とお茶を飲みながらおしゃべりを楽しんだり、育児の悩みを相談したりする場所」や「子どもたちが遊ぶために集合して来て、地域の人たちとあいさつを交わす場所」など、『子どもから高齢者まで、誰もが特に目的もなく集まり時間を過ごせる場所』が地域にあり、自然に世代間の交流が図られる地域の居場所があれば良いと考えている。</p> <p>そこで、子育て支援や世代間交流の推進の一助となるような「地域の居場所づくり」を実現するため、地域と行政が一体となりどのような取り組みができるかについて懇談を実施したい。</p> <p>主な懇談内容</p> <p>○子育て世代と地域との交流の場や学童保育対象外(小学校 4 年生から中学生)の子どもが安心・安全に過ごせる場所について</p> <p>○地域住民が主体となって事業を継続的に運営できる仕組み〈予算確保、組織構築、人材に係る適切な対価(報酬や謝礼)など〉づくりについて</p>

■地区の取組状況等

- 城山地区まちづくり会議の主な取り組み
 - ◇高齢者とともに築き支える地域づくり部会
 - ・おせっかい風土をひろめよう
 - ◇子どもたちの主体性を育む地域づくり部会
 - ・モルック体験会及び大会の実施

- 公民館、民児協、自治会など主な取り組み
 - ◇公民館の活用
 - ・公民館の中庭などを開放し来館者が交流できるスペースを拡大した。
 - ◇民児協が主体となり公民館でサロンを実施
 - ・子育てサロンマシュマロクラブ
 - ◇地域の交流の場
 - ・YY（わいわい）わかば
 - ・久保沢ふれあいカフェ
 - ・若葉ほっこりーな
 - ・原宿なごまーる

■市の取組状況等

市の現状・経過・取組状況

○児童クラブの順次年齢拡大(放課後児童対策課・こども施設課)

67か所ある市立児童クラブの受入れ年齢については、原則、小学校等の1年生から3年生(障害等により特別に支援が必要な児童は6年生)までとし、4年生又は6年生までの受入れは、モデル事業として実施している。

(モデル事業：令和7年度時点では、受入れ年齢が4年生までの児童クラブが8か所、6年生までの児童クラブが3か所 計11児童クラブ)

開始年度	実施内容
平成30年度	桂北、 光が丘 、 もえぎ台 の受入れ年齢を4年生まで拡大
令和2年度	藤野 、 藤野南 の受入れ年齢を4年生まで拡大
3年度	千木良、内郷の受入れ年齢を4年生まで拡大
5年度	中野 、 串川 、 根小屋 、 津久井中央 の受入れ年齢を4年生まで拡大
6年度	桂北、千木良、内郷の受入れ年齢を6年生まで拡大

- ・令和7年5月1日時点で、待機児童が発生しているクラブを中心に、令和7年9月補正予算で学校内の場所確保・整備を行うとともに、まずは4年生まで受入れ年齢を拡大する。

待機児童数	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	120人	78人	68人	86人	87人	95人	102人	103人	157人

- ・学年別 1年生：18人 2年生：45人 3年生：89人 5年生：5人

★城山地区について★

- ・令和8年は広田、広陵が4年生まで年齢拡大。
- ・湘南小学校内には児童クラブが未設置であるため、湘南小学校の児童は城山こどもセンター内の川尻児童クラブへタクシーで移送している。(タクシー事業者：城山交通)
- 令和7年度 児童クラブ利用児童 2名(2年生1名、3年生1名)

○多世代交流フリースペースづくり(こども・若者政策課)

市内公民館等の新設や大規模改修の際には多世代交流フリースペースの設置も考慮する要素の1つとして具体的な整備計画を策定していく。

※「光が丘地区学校跡施設(旧青葉小学校)利活用基本計画」の案において、「地域の魅力やゆるやかな繋がりを大切に」という基本方針に基づき、学校が担ってきた地域コミュニティの場としての役割を踏まえ、各世代が活躍でき、地域間や世代間が緩やかに繋がることができる施設を目指すため、複合施設の中に、予約なしで使えるフリースペースを設ける予定。

※公民館→星が丘公民館(先駆的な取組)、大沼公民館(親子スペース、学習スペース)、藤野中央公民館(交流スペース)、大野北公民館(活動スペース)

○子ども食堂・無料学習支援(こども・若者応援課)

子ども食堂・無料学習支援団体には、立上げや活動継続のための相談支援や、企業や市民からの寄附調整、傷害保険の加入等を行い、団体が安定的に活動できる環境づくりを推進している。

また、団体同士の繋がりの場として情報交換会を年3回実施している。(緑区では10/30実施)

・令和7年6月補正予算において、物価高騰の影響を受けている子ども食堂及び無料学習支援の負担軽減を図るため、補助金を交付している。

【子ども食堂・無料学習支援登録数】

	H31. 4	R2. 4	R3. 4	R4. 3	R5. 3	R6. 3	R7. 6
子ども食堂	24	33	35	43	48	52	60
学習支援	17	26	27	36	40	39	51
合計	41	59	62	79	88	91	111

★城山地区内活動団体(子ども食堂1団体)★

・「城山子ども食堂 ころもで」 開催日時：不定期(学校給食がない日の12時～14時、城山公民館他、子ども100円、高校生以上300円)

今後について

○今後は、3年生までの待機児童の解消も含め、場所や職員確保など受入れ体制が整った児童クラブから、令和10年度までに受入れ年齢を小学6年生まで段階的に拡大することを目指す。

○4年生以上へ年齢拡大を図った場合に待機児童の発生が見込まれる児童クラブにおいては、令和8年度当初予算要求、令和9年度当初予算要求を行い、段階的に学校内の改修等の調整を進める。

市立児童クラブ 受入れ学年	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	当初	当初	当初	当初
3年生まで	56	31	0	0
4年生まで	8	26	25	0
6年生まで	3	10	42	67

※改修状況などにより、4年生以上の受入れクラブ数は変更する可能性あり

○旧青葉小跡地に設置予定の複合施設などには、多世代が交流できるフリースペースの設置を予定している。

○子ども食堂・無料学習支援団体の意見を伺いながら、安定的な運営の継続ができるよう支援をしていく。

市の現状・経過・取組状況（市民協働推進課）

- 「地域活性化事業交付金」「市民ファンドゆめの芽」で資金面を支援し、さがみはら市民活動サポートセンターで団体連携や相談対応を実施している。
- 個別の子ども食堂や学習支援の取組は進んでいると捉えているが、世代横断的な居場所は不足していると考えている。地域活動団体の担い手の固定化や人材不足も課題である。
- ユニコムプラザさがみはらの橋渡し機能を活用した大学との連携も行われている。

今後について

- 「地域活性化事業交付金」「市民ファンドゆめの芽」を活用した財政支援を継続する。
- さがみはら市民活動サポートセンターによる、団体間の連携やコーディネートを強化する。
- ユニコムプラザさがみはらを活用し、大学生や若い世代との橋渡しを進め、担い手不足の解消を図る。
- 相模ボラディア等、若者が地域の課題や活動に触れる機会を提供することで関心や参加意欲を高め、地域活動に参加できる人材を増やしていく。

【質問・意見と市の回答】

質問・意見	市の回答
<p>児童クラブの対象児童について、小学校6年生まで受入れ年齢を拡大していくという話があったが、小学生4年生から6年生までの児童のうち、対象者の割合について把握しているのか。また、6年生まで受入れると現在の定数からどの程度の割合で増加することを見込んでいるのか伺いたい。それによって必要な職員数が変わってくると思われる。</p>	<p>・児童クラブについて、現在、待機児童の数がかなり増えているということと、原則3年生までの受入れという本市の状況は、全国的に見てもかなり取り組みが遅れており、拡充に向けた取り組みを進めている。その中で、令和8年度に計画している城山地区の児童クラブの状況だが、受入れ拡充を進めて行こうと考えているのが、広田小学校にある児童クラブ、広陵小学校にある児童クラブであり、来年度は4年生まで受入れるかたちで進めて行きたいと考えている。また、川尻小学校にある児童クラブ（城山こどもセンター）については、来年度は3年生までだが、令和9年度には6年生までに拡充したいと考えており、現在検討を進めているところである。</p> <p>・割合については、それぞれの小学校や地域によって全校児童数に比較する児童クラブ入会数は様々になるため、お答えすることができない。その中で、児童クラブの環境を変えずに受入れが可能であると考えているのが、広田小と広陵小になる。川尻小の城山こどもセンターについては、施設の改修が必要であると考えている。なお、拡充に伴い職員数についても6人程度増やさなければならないと試算している。</p>
<p>多世代、多様な人々がいつでも集えるボランティア活動の拠点があれば良いと考えている。城山中央保育園が廃園になり解体の予定と聞いているが、地域のコミュニティセンターとして再活用できないのか。</p> <p>相模原市内で例を上げると、まちづくりセンターの近くの空き商業施設を借り上げて、サポートセンターとして活発に福祉関連事業を実施、展開している事例がある。これは、社会福祉協議会が関わっているが、城山地区においても、地域の居場所や多様な活動の拠点がほしい。</p>	<p>城山中央保育園の活用について、すぐに回答をすることは困難であるが、地域の多世代交流の拠点の必要性については市としても感じている。</p> <p>先ほど、社協において多世代が無料無条件で交流できるスペースがあると伺ったが、中央区の田名地区に「和い輪い田名」という地区社協が運営している施設がある。そこはお蕎麦屋さんだった空き店舗を借り、駄菓子やお茶が用意しており、利用料100円（大人）で利用ができるため、高齢者の方も大勢来ている。また、定期的に駄菓子屋にもなり、近くの田名中学校の生徒が駄菓子を買いに来たりしていて、子どもたちにも魅力的な場所となっている。その他にも大人と子どもが交流できるイベントを週4回実施しているなど、地域の居場所として城山地区で考えているイメージに近いかと思い、事例として紹介したものである。</p> <p>このような中、役所で同様の施設をやろうとすると、専門的なことをやりがちになり、縦割</p>

	<p>りの仕事になってしまう。それならば、NPO、地区連、地区社協、民児協、公民館などで連携して運営することができれば、より柔軟な活動ができるのではないかと考える。コミュニティセンターの直接的な話ではないが、今話をした事例のように空き店舗を借りられれば、事業ができそうな印象を持った。</p>
<p>田名の事例について、運営に関わる人は単なるボランティアなのか。又は、運営事業体がしっかり整えられ、責任をもって運営を行う責任者がいるのか。また、公がやっているのか民がやっているのか、運営方法について伺いたい。</p>	<p>責任者は地区社協の会長であり、基本的にボランティアで運営を行っている。何かしら地区社協の支援を受けているかもしれないが、詳細については定かではない。</p>
<p>相模台では、地区社協が場所を借りて、民生委員などがボランティアで運営している。</p>	
<p>副市長が言っていたフリースペースの運営の仕方について、市の職員だけで運営するのか、又は民間や地域住民が携わり何らかの運営事業体をつくり市から委託を受けて運営するのか伺いたい。城山地域では、単なるボランティアばかりであり、それに甘えすぎてはいけなと考えている。共同組合的のようなものをつくるなど、市はどのような風に意識しているのか聞きたい。公の仕事を民間に丸投げして、みんなが善意でやっているような仕組みは少しやめていただきたい。様々な地域課題を解決するときに、高齢者が多い現状の中で、居場所をどのように運営するのか、市としての考えを伺い、地域も一緒に考えていきたい。アイデアがあれば教えてほしい。</p>	<p>子育て支援について、市の方の取り組みとしては一丁目一番地という形で取り組んでおり、子育て支援に係る条例も作り、取り組んでいるところである。子どもの居場所づくり、高齢者の居場所づくり、その他の居場所づくり、とても大切な問題で行政の課題であると思っている。少子高齢化も進み、人口減少社会になり、家庭での孤立化も進んでいると思う。</p> <p>このような中、中央区の区民会議では昨年から一昨年の2年間をかけて、分科会を設け居場所づくりをテーマにして考えた。福祉、貧困、学業支援、子育て、コミュニティ構築、仲間づくり、多世代の交流など様々な視点があり、全てを網羅することはとても難しいことだと会議の中で共有をした。</p> <p>行政でしっかり考えていく責任はあるが、地域の方々に軽やかに考えていくという側面も非常に大事であると考えている。報酬、保険、責任の問題など、持続を可能にしていく方法は様々であり、ボランティアだけに頼らないという方法は、一つの形としておっしゃるとおりである。しかし、それを一つだけの形としてではなく、地域に合った形を見出していくことも地域の一つの力かと考えている。</p>
<p>人間が生きていく上で、一つの関わりだけではなく何かしらのいろいろな関わりがあると、どこかで自分が苦しいときも助けになるというのが私の中の基本的な感覚である。お金、責任、場所の問題もあるかと思うが、どこにどういう繋がりを持てる場があるかは人それぞれ違うので、城山地区の中に一つだけ繋がり場の場所をつくるのは難しいと感じる。それぞれの地域にあった繋がり場ができれば良い。</p>	

<p>まちづくり会議は、自治会会長、商工会会長、学校の校長先生など、城山の組織の代表が集まっているので、そこを繋げていき、城山地域を大きく網羅して見れるように会議を活用できれば良いと思う。</p> <p>また、このような話題が出てきたのは良いことだと思うが、簡単に一つ形や施設をつくって、その建物の中で何かをやるということは、難しいと思う。誰でも、ひよっこり行ける所を作ること、そこに誰かがいることがすごく大事であり、誰かがいて、誰かと喋れる場を、かしこまらずに出来たらいいかと思っている。</p>	
<p>以前、学童保育（旧くすのき館）の指導員をしていた。当時、小学校１年生から３年生までの児童が通っていて、人数も少なく定員に達していなかった。相模原市と城山町が合併してからは児童も増えて、今は定員オーバーしていると思う。</p> <p>また、当時くすのき館には小さい子どもを連れた親子も来ており、学校が終わり児童が来ると、館内が一杯になり大騒ぎであった。今の状態を見ていないので何とも言えないが、行政の方にも様子を見ていただいて、どの様に過ごしているか確認してほしい。</p> <p>１年生から３年生までの間に、「子どもが少しずつ地域に慣れ、４年生になると地域に帰れる」というような気持ちで保護者も子どもいた。中には親に内緒で学童をさぼったり、４年生になると学童対象外なので良かったと思う子もいたり、だんだんと育っていくのが当たり前のような感じであった。しかし、現在では子どもがのほほんと過ごせる場所が少なくなり、地域にも危険な場所があったり、友達の家にも行きにくいという話があったり、子どもが過ごしにくいと思う。どこか拠り所、寄って行ける場所、友達同士が誘い合い集合できる場所があれば良い。</p> <p>また、高齢者が、あそこにお喋りしに行こうよと誘い合っている場所があれば良いと思う。それが、限られた曜日だけではなく、いつも行ったら開いているような場所があれば良いと思う。その場所は、小学生だけではなく中学生や高校生も来ても良いと思うし、そこでは知らないうちに高校生がボランティアをしていたり、高齢者もそのつもりがなくてもボランティアをしていたりするかもしれない。誰でも参加者であり、誰でもボランティアのような人</p>	<p>先日、他地区の小学校の校長先生と話をする機会があったが、今の子どもの放課後の過ごし方が昔と様変わりをし、遊ぶことができない状況が増えてきていると伺っており、昔とは違う状況であると思っている。そういった中で、いつも行ったら空いている場所や落ち着ける場所があれば良いのはその通りであると思っている。</p> <p>ただ、子どもたちが居場所と思える場所とは、子どもが「そこへ行きたい」とか「いつまでも居たい」と思う場所であり、子どもたちの満足や思いを反映させることが重要であり、その視点を持って居場所づくりを進める必要があると思っている。私たちも同じだが、子どもの意見を聞きながら居場所づくりを進めたいと思っているので、同じ方向を向いてそういった取り組みができれば良いと思っている。</p>

<p>間関係ができれば良いと思う。子連れの親子が来て、自分の子どもは他人が見ていて、自分は他人の子をあやしているような関係ができれば良いと思うので、そういう場所があれば良い。</p>	
<p>・児童クラブの定員が増え施設での受入れが難しくなってくると学校の教室を使って保育をするなどの話が出てくると思う。これは、個人的な考えであるが、学校施設を利用することは、一つの考え方であると思っている。ただ問題なのが、学校の施設が放課後に子どもたちや地域の方々に開放するようには作られておらず、そのことが一番難しいと思っている。単に教室を開放すれば子どもたちが利用できるという訳でもなく、そこには物があるし、誰が入ってくるかも分からないし、そんな状況の中で単純に学校を開放することは難しい。しかし、逆を言えば、そういう設備を整えていただければ、体育館や校庭のように教室を開放する方法も一つの考えとして出てくる。</p> <p>そうした中では、小学校は1年生から6年生までであるが、保護者の方も行事等で学校へ来ている。もう少し言うと、川尻小学校では地域の行事ではほとんどの時に校庭や体育館を開放して、参加している。そういったところでは、地域の方は集まりやすく、施設のこともよく分かっていて、とても馴染みのある、とても巨大な施設なので、ここをうまく利用することは大事であると思っている。</p> <p>今の状況では、施設自体も老朽化など、いろいろな意味で難しくなっている。学校自体を地域に開放するということであれば、設備の面できちんと考えて設計した上で改修や建て直しをしていくと幅広い学校の活用と地域の利用に繋がっていくと思う。</p> <p>・学校は、地域の共有地であり、地域の人がうまく使い、住民が子どもたちと会える場所である。部外者が入ってきて危険である面もあり、子どもや自分を守らなければならないというせめぎ合いもあるが、城山地区はなるべく開放された学校であってほしい。</p>	<p>学校の施設利用について、児童クラブの拡充を進める中で、今現在も教育委員会と学校に全面的に協力を頂きながら進めているところである。児童クラブについて、学校の空き教室はほとんど無いと伺っており、特別教室や普通教室をタイムシェアして利用ができないかというところで進めている。</p> <p>その中で、学校を児童クラブとして活用するためには、必ず設備や整備が必要となってくるところだが、セキュリティの部分で改修を進めなければいけないこともある。例えば、児童クラブの子どもたちが利用するから学校全体のセキュリティを変更するという改修もしているし、必要な設備が今の学校だと不都合があるから、児童クラブにするにはこういうところを改修しなければならない、などといったところを学校と意見交換をしながら整備を進めているので、協力をして頂くことがあれば改めて学校側と密に連携をしながら調整を進めて行きたいと思っている。</p>
<p>今後、城山地区まちづくり会議が説明をしている今回のテーマに基づき、どういう形で具現化していくかに際して、ご示唆いただきたい。先ほど副市長から旧青葉小学校のケーススタディの案内があったが、それぞれ立地する条件によって、テーマの地域の居場所づくりについ</p>	<p>子育て機能についてになるが、旧青葉小学校についてはここで廃校になり、子育て支援の機能を実施していくことも一つの要素に入っている。このような中、今時点ではケーススタディになるかまで具体的に煮詰まっていない状況である。どちらかと言うと、多世代型の交流</p>

<p>では、皆さんが同じ方向を向いて、行政を含む相模原全体で居場所づくりはやるべきであるということが共通認識としてあることを前提に、この城山地区の特殊性、特殊事情などを踏まえ、冒頭代表から話があったケーススタディとして、旧青葉小学校を活用する事例が城山地区に当てはまる、また、きわめて勉強になるというものなのか、そうでないのかを伺いたい。</p> <p>もう1点、特別市に向けて検討されていると思うが、この地域の居場所づくりについて、予算（人、物、金関係）的に権限が移譲されて相模原市で柔軟に運用できるような法的なスキームを今考えているのか伺いたい。</p>	<p>の場や、いつでも行ったときに人が誰かいて対応ができて、愚痴をこぼしたり、何気ない対応が出来たりする場が、なかなかないと思う。先ほど話した、福祉よりのケースなのか、孤立した子どもたちを助けてあげようということなのか、学習をもっと教えてあげようということなのか、お母さん方々の悩みを聞いてあげようということなのか、それにより、行政が作ろうとすると施設のあり方が変わってくる。</p> <p>一方で、先ほど話した「和い輪い田名」とか清新にあるカフェなど、そういうところは、比較的自由度が高く、誰が行ってもいつでも歓迎されるし、その分、自分たちで何か企画してイベントをやっていくこともしている。趣旨に応じ様々その日その日でスタイルを変えている印象を持っている。旧青葉小学校のケースが城山地区に当てはまるかは定かではないが、お話を聞いている限りでは「和い輪い田名」がもしかしたら当てはまるかもしれないと思われる。</p> <p>特別市について、多世代の居場所づくりについては、特別市になって県が持っている権限の委譲を受けてやるということとは、特に関係がない。特別市になったからと言ってできるものでもないし、特別市にならないとできないというわけでもない。そのような性質の事業や取り組みになるかと思うので切り離して考えて良いと思う。</p>
<p>居場所づくりには施設やスタッフが必要であると私も思っている。ただ、ハードの面で実現しても、本当に皆さんがその施設に来るものなのか考えていた。</p> <p>例えば、高齢者のことと、子どものことを2つ考えた時に、まず高齢者は確実に増えているのに老人会に入っている人はどんどん減っている。なお、自治会への加入もやはり減っている。このような、コミュニティに関わりたくないと思える人も結構増えているのではないかなと思う。</p> <p>定年延長になり70歳近くまで働いていて、引退後は地域に関りを持ちたくない方がいる。それから、地域の子どもたちを見ると、子どもの数は減っている。育成会や子ども会も減ったり、無くなったりしているのが現実である。学校行事も、授業日数を確保するために地域と学校の関わりが前に比べて少し減っているような気がしている。したがって、どのように関わりを持たせるような活動をしていくかが大切</p>	

<p>であると思う。</p> <p>1つの例でいうと、久保沢自治会の各種イベントだが、高齢の役員が脚立に上ったりして非常に大変であるため、何とかして若い人が入ってこないかと思っていた。そんな中で、今年、各種イベントの協力員ということで役員として8人加入し、全員30代である。納涼大会に参加してもらい、焼き鳥を焼くなどいろいろ手伝いをしてもらった。</p> <p>こういう若い人を含めて如何に巻き込んでいくかが大事である。また、働き方改革で土日が休みの人も増えてきており、若い子育て世代の男性も昼間に家にいたりする。こういう人たちをいかに引っ張り出すかということも非常に大事な視点であると思っている。</p> <p>施設は当然充実させる必要はあるが、どうやってそのような人と関わりを持つような活動をしていくかが課題であると感じている。</p>	
<p>・令和9年度に湘南小学校が広田小学校に統合されるという話を聞いた。そのような中、運動会においては児童数が少ないため、地域の自治会の方々が運動会に参加し一緒に運動会を行っている。学校の先生や生徒及び地域の住民が一体となって運動会を実施しており、これこそが子どもたちに寄り添うことになるかと思う。</p> <p>このようにこれからは、地域と学校と児童をどのように連携させ繋いでいくかが、子どもたちの居場所づくりの原点だと思う。何年か前に川尻小学校の先生が神輿を担いだ時があり、それを見た児童から「先生がお神輿を担いでいる」と言いながら拍手をしていたが、こういった学校と地域との関係があり、もっと充実をさせていけば子どもたちの居場所が自然に生まれてくると思う。地域にそのような思いがあれば、子どもたちも気兼ねなく地域に入ってこれると思う。</p> <p>・湘南小学校の跡地利用についても考えなければいけないと思う。</p>	